

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100616		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア寿町		
所在地	北海道釧路市寿3丁目3番28号		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人社団 藤花会として令和4年2月1日に開設された2件目のグループホームです。利用者様一人一人、尊重した暮らしが出来るように生活歴の把握、思いや意向の把握に努め、生きがいを持って、ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いつも同じ馴染みの環境、暮らしのあらゆる場面で適度であることをケア原則とし「ゆったり」「楽しく」「一緒に」を理念に掲げ常に利用者様を主としたケアに取り組んでいます。
 ・「地域密着」を意識し、地域に溶け込めるよう、近隣住民と交流を行い地域社会との繋がりを大切にしていきたいと考えています。
 ・職員一人一人が利用者様と生活を共にしている事を意識し、ゆっくりと関わりを持つようにし、落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、居心地よい温かい生活、安心、安全な生活が送れるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://ansaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0194100616
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団 藤花会により釧路市2か所目のグループホームウィスタリア寿は令和4年2月に2ユニットで開設されています。開設にあたっては釧路市から、グループホーム開設の依頼と、地域の防災施設としての協力要請があり、食事提供機能(炊き出し)が併設されています。発電および蓄電設備、大型の炊事器具等の整備がされています。管理者はウィスタリアからの移動で前施設でも開設時から関与した管理者であり、利用者中心を基本に職員が考え行動する事を指導しています。
 グループホームの方向を示す理念は開設時から職員と話し合い皆の思いのこもった言葉で表現し、『理念ーケアの原則「ゆったり」「楽しく」「一緒に」』利用者本位の考え方、誰の為なのかを、誰が楽しんでほしいのかを考えると同時に、職員も一緒に楽しむことが大事と取り組んでいます。職員の提案でバザーを開催し事業所通貨を発行して、職員から提供された物を購入し、買い物する楽しさを感じています。開設前には地域町内会の役員に挨拶、内覧して頂き理解を得て、協力の確約をいただいています。新型コロナウイルスの影響で制約されている外出も感染予防をしながらの車中での花見やグループホーム内での行事、食事の内容と利用者様が楽しく活力ある生活が送れるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(事業所が目指す目標)を掲げ、日々の介護をその理念に照らし合わせつつ、管理者・職員が常に情報を共有し、日々の実践を行っている。又、理念を申し送り時に唱和し実践に繋がれるように努めている。	開設時から管理者、職員で目指す方向を話し合い意見を集約して「ゆったり」「楽しく」「いっしょに」を理念と定めています。管理者は常に意識し利用者中心で考えるよう業務の中や会議で話しており、ネームカード裏に記載すると共に毎朝の申し送りには唱和して心一つにして実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設前に町内会長や副会長にお会いし、近隣の方々へもご挨拶をさせていただき、町内会にも入会させていただいた。コロナ過、催しが全て中止されているが、必要事項は回覧版で周知されている。	開設前に法人職員、管理者で町内会役員に挨拶に出向き、内覧をして頂き理解を得ています。町内会に加入しており回覧版で情報を得ていますが、新型コロナウイルスの影響で総会や活動、事業は中止しており交流は収束後と考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が入居者様との交流を通し認知症を理解すると共に、認知症に関する相談を快く受け入れしている。又、施設見学や入居相談についても行っている。(コロナの感染状況に応じ見学を受け入れしている)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月1回、運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行っているが、コロナ過、資料の送付による活動報告し、書面若しくは電話により評価を受けるとともに、必要な要望、助言を受け、サービスの向上に活かしている。	開設年でありグループホーム内の形が整いつつある6月から運営推進会議を開催していますがコロナ禍で書面会議になっています。市担当者、地域包括、町内会役員の他全家族にも会議書類を郵送し意見を求めています。毎回地域包括支援センター長から意見を得ておりサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にグループホーム開設時から多大な協力をしていただき、現在も積極的な協力関係を構築している。	市担当者からは開設前からアドバイスを得たり、新型ウイルス感染時には保健所と共に対応して頂き積極的な協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」を設置し、研修会等で身体拘束の意味を理解し、身体を拘束しないケアに取り組んでいる。玄関はオートロックになっており、安全、防犯に徹している。	身体拘束廃止に向けては、身体拘束適正化委員会は、管理者を委員長に介護リーダー2名の3名で委員会を構成し、3か月毎に開催しています。更に、身体拘束廃止についての詳細な取り組み方や禁止行為等の資料を用意して内部研修に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員はヒヤリハットの活用や日々のミーティングにおいて、いわゆるグレーゾーンに属さないケアに注意を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が現在、実際に後見人活動を行っている為、内部研修を行い本人(入居者)の尊厳を保ち、制度への理解を深めている。又、現入居者様の中に4名の方に後見人が付いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に時間を取り、重要事項説明及び契約書を設枚している。家族に不明な点がないか確認しながら説明を進め、納得、了解をいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談窓口を設置し要望等が出た時は、早期に解決できるように取り組んで行きたい。また、家族が気軽に来られる雰囲気作りを心掛けている。	利用者、家族の意見や要望は会話の中や面会時に把握するように努めています。コロナ禍で面会を制限していますが、窓越し、ドア越しの面会も家族から遠慮されており、電話や毎月の通信で様子を伝え要望を把握しサービスに反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間のある限りミーティングを行い、職員の提案や意見を十分聞くようにし、風通しの良い職場づくりを目指している。また、職員のストレスケアにも取り組み、個別に話を聞くようにしています。	職員の意見や提案は日常業務や毎月の会議の中で把握する様努めています。新規採用職員には経験がある職員が指導役となるOJTを取り入れ指導育成しています。コロナ禍で利用者を楽しんでもらう様バザーの提案があり準備から実施と皆で楽しみながら行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を十分に聞き入れ各自が向上心を持って働ける職場環境を整え、働き甲斐のある職場作りを目指し、職員の意見や要望を聞く機会を持っている。また、資格取得の援助も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防の影響で外部の研修に参加する機会が減少しています。今後はDVDを使って内部研修を充実させる等、研修を受ける機会を確保していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の地域ケア会議に管理者や職員が参加できるようにしているが、コロナ感染拡大以降は同業者との交流や相互訪問等はできていない。交流の仕方を工夫し新たな機会を作っていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と会って、話を良く聴き、入居時、安心した生活が送れるように、不安や困難事項を早期に対応し、入居者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や状況について、よく話を聴いて家族の思いや意向を受け止めながら、ホームとしてどのような対応ができるか事前に話し合い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を重視して当面の目標や働き掛けを全職員で共通理解を図っていく。必要に応じて主治医や入居前のケアマネジャーやサービス事業所の方から情報提供や助言を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、お茶を飲みながら会話をしたり、本人の能力に応じて出来る事を一緒にしながら、お互いが感謝の言葉を口にできるように支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活歴や習慣を、折に触れ聞いたりして支援に活かしている。普段の暮らしぶりを毎月、お便りにしてお知らせしている。時には家族の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で外部の家族や友人とやりとりし、関係継続に配慮している。面会は感染対策を施した上で極力対面で会っていただくよう心掛け、親しい人との関係が途切れないように配慮するとともに、ホーム内での親しい関係づくりも支援している。	利用者の馴染みの場所や友人との面会はコロナ禍で行われていませんが、グループホーム内での関係が築かれるように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関りの中で、入居者同士の関係を把握して、フロアの座席の位置を決めたり、共同で作業ができる場面を作ったりして入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、サービス利用の間に培われた関係性を大切に、その後の相談や支援に応じる姿勢を示していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々の思いや意向を明確にしてミーティングで話し合い、理解に努めている。普段の生活の中で把握した内容については、介護日誌に書き止め共通理解し日々のケアに活かすよう努めている。	利用者の暮らし方の希望や終活、終末期の迎え方については日常の会話の中で把握し理解に努めています。また、家族の希望も伺い実現出来る様に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、一人一人の生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心して、その方らしい生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有し、サービス記録に記入し等して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを行い現状確認、意見を出し合い、今の暮らしをどうするか考えている。日々、心身状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告、連絡、相談を行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	介護計画は短期目標期間の6か月をめぐりに見直しをすることになっていますが、最初は3か月で見直しを行なっています。管理者がモニタリングを行い会議でのカンファレンスで検討しながら現状に即した計画とサービス提供となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し、職員同士で情報を共有して介護計画を作成している。(変化があった場合には直ぐに対応できるようにしている)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携医による定期的な訪問診療を行って、入居者様にとって負担となる受診や入院を回避したり、本人や家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎等必要な支援を柔軟に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるか、情報の収集が不足している事は否めない。どのように地域資源を取り入れていくか模索中である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続できるよう入居の際に希望を聞いている。受診や往診の際には職員が立ち合い医師に状態報告を行う等して適切な医療が受けられるよう努めている。	これまでのかかりつけ医へ家族と事業所の対応で受診している他往診を受けている利用者もいます。毎月2回看護師の訪問があり全員の健康管理に取り組んでいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、看護師による健康管理を行っている。その際に口頭で入居者様の状況(病院受診した内容)を伝えたり、連絡ノートに記入して情報共有している。また、入居者様に異状等がある場合は、電話で相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為に、診察には家族と共に立ち合い、医師と話をする機会を作って、本人の普段の状況を伝えたり、病状の情報を得るなどして、速やかな退院に結び付くよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を基に利用開始時に重度化や看取りに対しての意向や要望確認を行っている。実際に看取りの希望があった場合は、主治医や家族、職員間で今後の方針を話す事になります。	重度化した場合や終末期の在り方については、重度化対応・終末期ケア対応指針でグループホームで取り組めることを説明し理解を得ています。実際には医療機関の事情で看取りケアの体制構築はこれからとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。コロナ過、消防署員立ち合いの検証訓練が行えおらず、新たな形での訓練を計画して定期的に行えるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2階実施したが、地震、風水害に対する品ん訓練は不定期となっており、初動体制や協力体制について今後、事業継続計画を策定して構築していきたい。	火災の避難訓練は今年度は消防署の指導を得て、2回夜間想定で自主訓練に取り組んでいます。開設時に市から災害時の食事救援を依頼されており発電、蓄電装置等を設置して備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護しているのではなく、お世話させて頂いているとの精神で一人ひとりの人格を尊重し、その方の性格等把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を行っている。又、不適切なケアとならないよう職員全員で取り組んでいる。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉掛けや対応について、会議の場や申し送り時に話し合いながら取り組んでいます。管理者は常に利用者のペースを大切に考え徹底できるよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中や接する場面では、自己決定を意識して声掛けや対応をしている。意思表示が困難な方には本人の思いや気持ちに寄り添う表情や仕草で確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて支援するように努めている。リビングで職員との会話を楽しんだり、居室で読書や好きなテレビを観たり、音楽を聴いたり、横になったりと、その方のペースで過ごせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を選んでもらったり、こだわりの物を身に着けられるように支援している。昔からの習慣で髪を伸ばしている方もいる。衣類の乱れがあればさりげなく声掛けしたり、一部介助をして身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや味付けに工夫をしている。テレビを観ながら、それぞれのペースで、ゆっくり食事をしている。職員も一緒に関につき会話をしながら明るい雰囲気作りを心掛けている。	献立はその日担当する職員が利用者の好みや希望、旬のものを考慮し調理しています。食事時間も一人ひとりのペースに合わせて行っており、誕生日は当日本人の希望の料理でお祝いし楽しい食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者と一緒に食事をしているので、好みや食事、水分量の確認や把握が分かり、職員間で共有している。午前、午後に水分補給を行い、食事、水分量の少ない方への捕食の提供、食事の形態や量等、その人の状態に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。見守りやケアが必要な方には適宜行い、口腔内の清潔保持に努めている。歯の状態に応じ歯科往診で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施するなど、出来る限りトイレでの排泄を心掛けた支援を行っている。体調や状態に合せポータブルトイレを設置する等、自立に向けた支援に努めている。	排泄チェックで習慣や間隔、状況がわかる様に記録しながらトイレでの排泄を目指しています。その際には羞恥心に配慮しながらカーテンで目隠しをして支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で管理している。排便の観察を行い、食事や飲み物等(食物繊維や乳製品)の提供を工夫している。日昼夜間を問わず水分補給に努め、運動の機会を提供する等、便秘の解消に繋げるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が出来るように計画し、ゆっくりとよとりある入浴を実施している。入浴を拒否する方には無理強いするのではなく、時間を置いて声掛けや働き掛けを行っている。入浴日以外は清潔保持や不快感を与えないように努めている。	入浴は週2回、その日の状態や状況を考慮して入れるよう取り組んでいます。あくまでも本人のペースを大切に無理強いすることなく会話が弾むような楽しい入浴になる様にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリある生活が起これるように日中は活動の機会を増やすようにしている。一人ひとりの生活ペースや状態を見て休息が必要な方には休んで頂く等、配慮している。夜間の不穏時には話を聴いたり、お茶やおやつを出したりして安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等ミスが生じないように処方箋一覧で確認しながらチェック、管理している。病状の変化が見られた場合は速やかにかかりつけ医に連絡している。副作用までとなると理解が不足している点があり、今後は把握するよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って過ごしていただけけるよう、今迄暮らしてこられた中で得意な事や楽しみの持てる事を不安無く出来るように支援している。職員と入居者が力を合わせて物作りを行い、鑑賞している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、季節に応じた名所めぐりや本人馴染みの場所などは、車で出掛け車窓から眺める程度に留まっている。天気の良い日は周辺の散歩に出掛け、気分転換を図り、外出支援を心掛けている。	コロナ禍で外出は人込みを避け季節に応じて花見や紅葉狩り等の行事計画を組んで行っています。天気の良い日には付近の散歩や外気浴で気分転換を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、少額のお金を所持して、お金がある安心感や満足感を得られるように支援しているが、実際に使う場面は今はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話出来るゆに支援している。携帯電話を所持している方が1名いますが、自由に使用して頂いています。(深夜、早朝は声掛け)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く十分なスペースがあり、スムーズに移動できる。キッチンとフロアと対面式になっており、調理の様子や音、匂いなどが伝わっている。窓も広めにとってあり、外の光が差し込み明るい雰囲気になっている。	リビングは催しや行事をするのに十分な広さがあり、温湿度や換気に配慮されています。内部は季節や行事に合わせた利用者と職員共同制作の切り絵等の作品を飾り、楽しい雰囲気を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置したり、畳のスペースがあるので、ゆっくり足を伸ばしたり、横になったり出来る。入居者同士の相性に配慮し食席やテーブルの配置に考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具や電化製品の持ち込みは可能で、自宅のように自由に使用する事ができる。自身の作品や家族の写真等を掲示するなど、入居者の好みに合わせ個性を尊重した環境作りを努めている。	居室はクローゼットとベットが備えられ、利用者は自宅から仏壇、衣装ケースや筆筒等の家具を配置し、家族の写真、人形を飾り自宅同様に生活出来る工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安心、安全を心掛け、居室ドアに大きく名前を表示したり、トイレや浴室等は分かりやすいように表示して自立に繋げている。		